

| | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|----------|----|------|-------------|-----------|-------|--|--|--|
| 授業科目 | 臨地実習Ⅱ（2023年度入学生） | | | | | 実務家教員担当科目 | - | | | |
| 単位 | 2 | 履修 | 選択 | 開講年次 | 3~4 | 開講時期 | 後期・前期 | | | |
| 担当教員 | 渡邊 和美、山田 志麻 | | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>臨地実習は管理栄養士養成のための実践教育科目であり、実践的能力を身に付けることができるよう、さまざまな施設での実習を経験する授業である。実習の目的は、「多様な専門領域に関する基本となる力」、「知識・技能・態度および考え方の総合的能力」、「チーム医療の重要性を理解し、多職種や患者・入所者のコミュニケーションを円滑に進めるための能力」、「保健・医療・福祉・介護システムの中での栄養・給食関連サービスのマネジメント能力」、「健康の保持増進・疾病の一次、二次、三次予防のための栄養・食事指導（教育）能力」など多岐にわたるため、実践の場で学び、身に付けることが重要である。そのためには、何よりも医療提供施設・介護老健福祉施設で管理栄養士がどのような実践活動をしているかを臨床の現場で学習することが大切となる。さらに、医療人としての資質を身に付け、管理栄養士としての感性を養うために、臨床現場である各施設で、患者や入所者を中心とした医療・介護の実際や他の専門職種の人々との連携についても深く学習する必要がある。これらの施設での実習を通じて、課題発見・解決、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメント能力を伸ばすことを期待する。</p> | | | | | | | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | | | 授業方法 | 学外実習 | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | | | | | | | | |
| 標準的レベル | <ol style="list-style-type: none"> 1. 周りの人に配慮し、良好な人間関係を築くことができる。(DP1-1, DP1-2) 2. 地域、学校、病院、社会福祉施設、事業所等には、どのような人たちがいて、どのような健康課題を抱えている人が多いのかを把握する。(DP1-1, DP1-2) 3. 地域、学校、病院、社会福祉施設、事業所等の対象者は、どのような食事をしている人が多いのかを把握する。(DP3-1, DP3-2) 4. 保健・医療・福祉現場における管理栄養士・栄養士の主な活動を把握する。(DP2-1, DP2-2) 5. 上記の内容を踏まえ、専門職としての使命、習得すべき資質・知識・技術を考え、カリキュラムとの関連性を把握する。(DP3-1, DP3-2, DP3-3) 6. 自己の課題を明確にし、目標を設定することができる。(DP4-1) | | | | | | | | | |
| 理想的レベル | <ol style="list-style-type: none"> 1. 業務上の問題点や課題があることに気づく。 2. 個人の多様性や喫食者ニーズの変化に気づく。 3. 予定外や想定外の出来事や要求に臨機応変に対応する必要があることに気づく。 4. 栄養摂取状況から栄養管理を必要とする人が多いことに気づく。 5. 問題点や課題への取り組みの重要性に気づく。 6. 管理栄養士・栄養士業務に気づく。 | | | | | | | | | |
| 評価方法・評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | | 評価割合（数値） | | | 備考 | | | | | |
| 試験 | | 0 | | | | | | | | |
| 小テスト | | 0 | | | | | | | | |
| レポート | | 30% | | | 実習施設へ提出する課題 | | | | | |

